



撮影：鎌田卓也



## モンゴル・ウランバートル市

# バザーから資源まで 大きいメディアの役割

世界銀行 ウズベキスタン カントリー・マネージャー 鎌田卓也

**WATCH FIRE**

【開発途上国の明日】



これはウランバートル市内の手  
工芸品バザーの様子を、同市  
の「チャンネル1」局が取材してい  
る光景である。

モンゴルのメディアはこのように  
小さなイベントもよく取材する。こ  
れは報道の自由が保障され、発達し  
たメディアの間で競争があるため  
もある。同国には「モンゴル・ナシ  
ヨナル・テレビ」などの全国ネット  
ワークテレビ局が5局、ローカル局  
が77社もある。日刊紙もウデリユ  
ン・ソニンをはじめとして16紙、ラ  
ジオ局は全国で76局を数える。同国  
の総人口が大阪市とほぼ同じ260  
万人くらいであることを考えると、  
その充実ぶりがよくわかる。

国際金融危機のあおりで財政危機  
に陥ったモンゴル経済は、主要輸出  
品である鉱物の価格高騰のおかげで  
急速に回復している。また大規模な  
オユ・トルゴイ鉱山が数年後に操業  
開始すると、同国のGDP成長率は  
一時的に25%を超えるというIMF  
と世界銀行の試算もある。

こうした資源開発の巨額なロイヤ  
ルティ収入を見込んだ政府は、2年  
後の総選挙も見据えて強気な財政支  
出計画を策定した。一方、予算配分  
に絡むガバナンスを強く懸念する声  
も多い。このようなおカネの動きに  
どこまで国民の目が届くのか、同国  
のメディアの役割はますます大きく  
なりそうである。

